

## オーストリアにおける就学前教育機関の発展過程

### —ザルツブルクを中心に—

非常勤講師 田 中 達 也

#### はじめに

本稿は、オーストリアにおける就学前教育機関の発展過程について述べる。特に、それがオーストリアで独自に発生したのではなく、ヨーロッパで19世紀前半に設立された少年（幼児）保護施設に影響を受けた流れに焦点を当てる。初期に強い影響を与えたのは、フランス（アルザス地方）のオーベルリンが1769年に設立した幼児保護施設と、ドイツのパウリーネが1802年に設立した少年保護施設である。まず、この2つについて述べる。

その上で、オーストリアにおいて就学前教育機関が成立・発展する動きについて述べる。最初の就学前教育機関は、ヴェルトハイマーが首都ウィーンに1830年に設立した少年保護施設である。その後、帝国政府は制限を付けながら、就学前教育機関を法制化した。ウィーンからオーストリア各地に波及し、ザルツブルクに少年保護施設が設立されたのは1840年代であった。本稿でザルツブルクを対象にしたのは、ザルツブルクで最初に就学前教育機関として設立された少年保護施設が発展し幼稚園に転換していく過程について研究したデデリッヒの文献が存在するからである。それは、Clara Dederichs, *Von der Bewahranstalt zum Kindergarten*, (Salzburg, 1962) である。

#### 1. ヨーロッパにおける初期の少年保護施設

##### (1) オーベルリンによる幼児保護施設

ヨーロッパで最初に少年保護施設を設立したのは、フランス・アルザス地方の牧師であるヨハン・フリードリヒ・オーベルリン（Johann Friedrich Oberlin, 1740-1826）であった。オーベルリンは、1769年にアルザスのシュタインタール（Steintal）の主任司祭管区に幼児保護施設（Kleinkinder-Bewahranstalten）を設立した。

彼は、児童保護に対する理念を持っていて、それを実現するための機関が幼児保護施設であった。オーベルリンが目指したのは、遊びによる保育が中心の低学年の子どもと、授業や編み物作業（紡ぐ、編む、縫う）が中心の高学年の子どもとを1つの施設のなかで秩序ある世話をすることであった。彼がこの幼児保護施設の最初の責任者に任命したのは、ルイーゼ・シェプラー（Louise Scheppler, 1763-1837）であった。彼女は、オーベルリンの指示に従って施設の実務面で指揮を取ると同時に、幼児教育者（施設の教員）の養成教育を行っていた<sup>(1)</sup>。

オーベルリンは、まず普段保護されていないでさまよっている子どもたちを施設に連れて来て、大人の監視下に置くことが必要と考えた。その上で、編み物作業を行わせながら、「良い言葉がけ」(gute Sprache)を行うことによって、子どもを馴染ませ、その後の通学を容易にすることを目指した。幼児は、1週間に2回施設に



図1 ヨハン・フリードリヒ・オーベルリン  
(1800年頃)<sup>(2)</sup>

通い、3歳から7歳までの子どもを入所対象年齢とした<sup>(3)</sup>。

このように、オーベルリンの幼児保護施設は就学前教育機関の先駆けであると同時に、19世紀にヨーロッパで設立された少年保護施設や幼稚園の基本形態になっていったのである。

## (2) パウリーネ侯爵夫人の少年保護施設

ドイツ<sup>(4)</sup>で初めて就学前教育機関を設立したのは、リッペ侯国(Fürstentum Lippe)のパウリーネ侯爵夫人(Pauline Christine Wilhelmine zur Lippe)であった。パウリーネが少年保護施設を作ることが出来たのは、彼女が1802年から1820年まで摂政として国の実権を握っていたことに起因する。1802年、パウリーネの配偶者であるリッペ侯レオポルド1世が死去したのだが、継承権を持つ息子のレオポルドが6歳と幼かったために、成人するまでパウリーネが摂政となったのである。

1802年7月1日に首都のデトモルト(Detmold)に少年保護施設(Kinderbewahranstalt)を設置した。パウリーネが設置を決めたきっかけは当時パリで第一統領を務めていたナポレオン・ボナパルトの妻ジョセフィーヌが経営する施設に刺激を受けたからであった。1798年に、パウリーネ侯爵夫人はデトモルトに就学児童のため



図2 リッペ侯国摂政パウリーネ (1801年)<sup>(5)</sup>

の工業学校(Industrieschule)を設立し、その学校を元に少年保護施設が出来たのである<sup>(6)</sup>。

少年保護施設が設置された理由は、貧しい母親が仕事を獲得することを可能にするためと同時に、子どものいない男やもめ(妻と離別・死別しているか、ずっと独身のまま一人暮らしをしている男性)を助けるためであった。この施設への入所可能な子どもは、「4、5歳まで」であった。パウリーネは、デトモルトの宮殿内で働いている女性の中から高い教養を受けた女性を募集し、施設で子どもの世話をさせた。最も適任とされたのは、普段から子どもの世話をしている若い女中や乳母(Kinderwärterinnen)であった<sup>(7)</sup>。

デトモルトの少年保護施設は、すぐに模範施設とされ、博愛主義者や慈善団体関係者が頻繁に訪問するようになった。この施設は、1856年にパウリーネ侯爵夫人財団(Fürstin-Pauline-Stiftung)が運営する私立幼稚園に転換し、現在も存続している。このように、パウリーネによる少年保護施設は、ドイツ語圏で幼稚園まで発展した最初の就学前教育機関であり、幼稚園の先駆けでもあると言えることが出来る。しかし、オーストリアに就学前教育機関が設立されたのは、もう少し後であった。

## 2. オーストリアにおける就学前教育機関の成立過程

### (1) ウィーンにおける少年保護施設の設立と拡大

オーストリアで就学前教育機関が始まるきっかけになったのは、ヨーゼフ・フォン・ヴェルトハイマー (Josef Ritter von Wertheimer, 1800-1887)<sup>(8)</sup> が1826年にイングランド人のサミュエル・ウィルダースピン (Samuel Wilderspin) の著書をドイツ語に翻訳したことである。その著書は、「貧しい幼児を教育することの重要性について」 (On the Importance of Educating the Infant Poor) として1823年に出版され、ドイツ語版では「子どもの初期教育とイギリスの幼児学校について」 (Über die frühzeitige Erziehung der Kinder und die Englischen Kleinkinderschulen) として出版された<sup>(9)</sup>。この本の翻訳によって、ヴェルトハイマーは就学前教育に対する興味を持ったのである。

1830年、ヴェルトハイマーはウィーン市の郊外に現地の主任司祭ヨハン・リントナーとともに最初の少年保護施設 (Kinderbewahranstalt) を設立した。同年に、ウィーン市中心部のヴィーデン (Wieden, 現在のウィーン第4区) とマルガレテン (Margarethen, 現在のウィーン第5区) に同じ施設が開設された<sup>(10)</sup>。



図3 ヨーゼフ・フォン・ヴェルトハイマー (1886年)<sup>(11)</sup>

その後、これらの少年保護施設の維持・発展を可能にするために活躍したのがウィーン学校監督官 (Schulen-Oberaufseher) のアウグスト・トゥルツァン (August Turzan) である。彼は、当時のオーストリア皇后カロリーネ・アウグステをパトロンとしたことにより、貴族階級の女性から多額の財政的援助を得ることを可能にした。慈善主義者たちは、「ヴィーナー・ツァイトゥング」紙でそのつとトゥルツァンを賞賛するほどであった。また、1832年にウィーン大司教になったミルデ (Vincenz Eduard Milde) も貢献した。というのもミルデは、オーストリアで有名な教育学者であるとともに、施設の設置団体の責任者を兼任していたからであった<sup>(12)</sup>。また、オーストリア教師のチマニ (Leopold Chimani) が1832年にウィーンで「幼児保護の理論について」 (Ueber die Theorie der Kleinkinderpflege) という教科書を発行した<sup>(13)</sup>。

少年保護施設を設立する動きは、すぐにウィーン以外の地方にも広がっていった。1831年には、早くもグラーツ (Graz) に最初の乳母学校 (Kinderwartanstalt) が女子団体 (Frauenverein) によって設立され、1832年には2つ目の学校が作られた。リンツ (Linz) でも1832年に2つの施設が新設された。また、クラゲンフルト (Klagenfurt, オーストリア南部の都市) やヴェルス (Wels, オーストリア中部) にも似た名称の施設が成立した。ウィーンに最も近いニーダーエスターライヒ地方<sup>(14)</sup>では、1841年にバーデン (Baden bei Wien) で最初の少年保護施設が設立された。ザルツブルクに施設が設置されるのはその後であった。

当時の就学前教育機関の設立の特徴は、①キリスト教的な愛情活動と社会思想、②施設を財政的に支える団体の設立、③主な担い手が聖職者や女性であることの3点を挙げることができる。

## (2) オーストリア帝国政府による布告

当時のオーストリア帝国政府は、オーストリアで就学前教育機関を設立する動きを後押しした。具体的には、1693年に成立した救貧法に、新たに第90条が1832年2月21日に皇帝フランツ1世の名で全地方政府に布告する形で追加されたことである。この中で幼児保護施設 (Kleinkinder-Bewahr-Anstalten) の導入と、施設の設立を目的とした団体が定められた。地方政府が施設を認可する条件として挙げたのは、以下の5点であった。

- ① 宗務局に属する
- ② 5歳以上の子どもを収容しない
- ③ 自由意志の寄付金によって運営される
- ④ 何か口実を作って第3者が関与すること、普通学校が支援すること、他の基金へ要求すること、これら全ては認められない
- ⑤ 最も厳しい意味で私立の団体や施設であり、学校として存在してはいけない<sup>(15)</sup>

であった。これらを要約すると、幼児保護施設を運営するのは教会の影響が強い慈善団体であり、学校との接続が全く認められていないということである。このように、1832年にオーストリアで始めて就学前教育機関が法制化されたのだが、義務教育機関としてではなく極めて限定された条件下であった。

## 3. ザルツブルクにおける少年保護施設の発展過程

### (1) 「幼児保護団体」の設立と少年保護施設の開設

ザルツブルクで少年保護施設が設立されるきっかけとなったのは、1844年に信仰の厚い女性と聖職者とが協力し、「幼児保護協会」 (Kinder-Bewahr-Verein) が設立された

ことである。その目的は、子どもの教育に対する両親の負担を軽減することであった<sup>(16)</sup>。協会の指導部は、ザルツブルク司教座参事会となっていたのだが、実際に協会で活動していたのは、12人のザルツブルク市の区女性長 (Bezirksfrauen) であった。区女性長は、毎年選挙で選ばれ、それぞれの市区において団体の目的にかなった活動を行い、分担金を集めていた。

1844年と1845年は、少年保護施設の設立に向けての動きはなかったのだが、1845年12月29日に出された指導 (Instruktion) が動き出すきっかけになった。ザルツブルクの博物館協会 (Museum-Verein)<sup>(17)</sup> は、幼児保護協会に対して少年保護施設を新設するように指導するとともに、以下の4点を示した。

- ① 区女性長は、施設へ金や現物を供与する支援者を見つけられるように努力しなければならない。
- ② 支援の集め方は、任意である。特に、誰かに協会の目的を記した用紙を配布させ、その結果を毎月カシール氏 (Herr CaBir) に状況報告する。
- ③ 子どもたちにより良い世話を必要とする (ザルツブルク市の) 区の (幼児を持つ) 両親は、区の慈善活動が遅いことからほとんど利用していない。両親が利用できるような施設を開設するように、該当する司牧 (ローマ・カトリック教会で司祭が教会を管理し信徒を指導すること) によって指示するべきである。
- ④ 最終的に同じ人が施設を交互に訪問するべきである<sup>(18)</sup>。

この指導は、不明な点がある。1点目は、博物館協会がなぜ幼児保護協会に少年保護施設の設置を求めたのかである。2点目は、状況報告を



行うカシール氏とは何者なのか。協会に関わる人物であると推測できるのだが、確定できる資料はない。しかしながら、この指導をきっかけにして、司教座聖堂参事会が少年保護施設を設立し、1846年の地方政府への設立認可申請へと動き出すこととなった。

## (2) 地方政府による少年保護施設の承認

1846年4月、ザルツブルク司教座聖堂参事会員兼宗務局長のバルタザール・シッター (Balthasar Schitter) が設立の申請書をリンツに拠点を置く地方政府 (Landesregierung)<sup>(19)</sup> に提出した。そして、4月12日にザルツブルク郡庁で意見表明が行われた。シッターは、ザルツブルクで最初に設立された少年保護施設の施設長であるとともに、司教座聖堂参事会から政府からの承認に関して全権を委任されていた人物でもあった。彼が意見表明の中で述べた内容の要約は以下の通りである。

自分は、長い年、少年保護施設の必要性を感じ続けていた。その理由は、当時のザルツブルクには貧困者やわずかな日給で生計を立てている財産のない者が多数いたからである。その中で義務教育の必要な子どもたちが学校に行くことなく、町で不良行為をすることに対して監督されることなく見捨てられていた。1844年に設立された慈善団体は、少年保護施設を設立することを意図している。この組織計画は、1832年2月21日に上位政府 (帝国政府) が出した布告と一致する。参事会は、政府に認可を申請する<sup>(20)</sup>

地方政府は、この請願を受けて、最初の少年保護施設であるマリア・アンナ (Die Anstalt Mariä Annä) を認可したのは、1846年4月22日であった。しかし、3点の条件が付けられた。

- ① 施設は、宗務局の監督の下にある
- ② 1832年2月21日の政府布告の条件は、動かさない
- ③ 「5歳以上の子どもを受け入れない」とした条件は、変更しても良い<sup>(21)</sup>

この3条件の中で最も興味深いのは、3点目である。というのも帝国政府が施設の設置条件とした「5歳以上の子どもは受け入れない」としたことが変更可能になったからである。この背景には、学校に通っていない子どもが町で不良行為を行っていることを嘆く意見表明をシッターが行ったことが影響していると思われる。

## (3) 幼児保護施設への専門教育の導入

1887年から幼児保護施設に体系化された専門教育が導入されるようになった。そのきっかけは、1872年6月22日に帝国の教育文化省 (Ministerium für Cultus und Unterricht) が幼児保護施設の幼児に幼稚園へ編入を可能にする政令が出されたことである<sup>(22)</sup>。マリア・アンナの中で様々なやりとりがあった後に、1887年9月14日に幼稚園への編入コースが開設された。同日に編入コースを担う教員採用試験が実施された。15人が受験し、この内8人が教会の最終試験を受験し全員が合格した。彼らは、施設と幼稚園だけではなく、初等教育機関の国民学校 (Volksschule) との接続も担当するようになった<sup>(23)</sup>。

1832年に救貧法第90条が成立した時、就学前教育機関は学校教育との接触が禁止されていたのだが、19世紀後半に幼稚園への編入試験が認められたことをきっかけにして学校教育との接触が始まった。これによってマリア・アンナは、教会傘下の施設から幼稚園をはじめとする就学前教育機関に吸収されていくこととなる。

#### (4) 少年保護施設の廃止と幼稚園への転換

オーストリア第1共和政期の1924年8月4日にマリア・アンナの土地所有権は、幼児保護協会からザルツブルク州連盟「慈善」(Barmherzigkeit)に譲渡された。そして、1924年10月1日に、マリア・アンナは少年保護施設から幼稚園に転換しその役割を終えた。

#### おわりに

本稿では、オーストリアにおける就学前教育機関の成立過程について述べた。ヨーロッパで最初に設立された2つの就学前教育機関は、設立の動機や入所可能年齢がそれぞれ異なっていた。まず、フランスのオーベルリンは、3歳から7歳までの幼児を大人の監視の下に置き、低年齢の子どもには遊びを、高年齢の子どもには編み物作業を課した。これは、彼が持っていた児童保護の概念を実現するために設置された施設である。それに対してリッペのパウリーネの幼児保護施設は、4-5歳の子どもに入所を限定した。設立動機も幼児を保護するよりも貧しい家庭の母親に仕事を与えるといった雇用対策という側面が強かった。

オーストリアで最初に就学前教育機関の前身となる少年保護施設を1830年に設立したのは、ヴェルトハイマーであった。設立のきっかけは、イギリス人のウィルダースピンが執筆した「貧しい幼児を教育することの重要性について」を翻訳したことであった。その後、トゥルツァンやミルデといった関係者の努力によって2年後には早くもウィーンに5つの少年保護施設が設立された。また、帝国政府もその動きを後押しして、1832年に設立を法的に承認した。その内容は、運営主体を教会の影響が強い私立の団体や施設に限定し、学校との接続を認めない厳しいものであったが、19世紀後半以降に就学前教育機関へ発展する基礎づけとなった。

オーストリア西部のザルツブルクに少年保護施設を最初に設立する動きは、1840年代に起こった。1844年に幼児保護協会が設立されたものの、実際の運営に携わったのは毎年選挙で選ばれる12人の区女子長であったため、施設の設置に向けた動きは進まなかった。しかし、1845年末に博物館協会が「指導」を勧告したことをきっかけにして、教会関係者が設立に向けて動き出し、1846年に地方政府から認可されるに至った。

19世紀後半になると、初等・中等教育機関といった普通教育機関へ進学する機会が拡大し、幼稚園も整備されていった。その中で厳しく制限されてきた保護施設に幼稚園への編入コースが設置されたことをきっかけにして、幼児を保護する役目が施設から幼稚園に移行していった。

ザルツブルクにおける就学前教育機関の成立過程の特徴は、以下の3つである。

- ① 地理的にドイツに近いにもかかわらず、リッペの影響よりも、ウィーンからの影響の下で少年保護施設が設立されたこと
- ② ザルツブルク市が、自主的に少年保護施設を設立できなかったこと。その結果、歴史的に影響力の強いザルツブルク司教座が直接動かなければならなかった。
- ③ ザルツブルクでは、帝国政府の方針と異なり、5歳以上の子どもにも少年保護施設に入ることを可能にしたこと。

本稿に残された課題は、2点である。1点目は、現在の幼稚園に繋がる少年保護施設を設立した、オーベルリンやパウリーネについてである。それぞれの施設ではどのような活動が行われていたのか。それがもし現在の幼稚園に繋がるのであれば本当の意味で「幼稚園の先駆け」と呼ぶことが出来よう。

2点目は、オーストリアにおける少年保護施設が幼稚園に転換する動きである。日本では、幼稚園と、保育所・施設が別に扱われているのだが、オーストリアをはじめとするヨーロッパでは両者を同じように就学前教育機関として扱われることが多い。それは、幼稚園をはじめとする就学前教育機関が幼児・少年保護施設の延長線上にあると考えられているためである。ザルツブルクのアンナ・マリアは、幼稚園に転換した少年保護施設である。なぜ転換するに至ったのかを別の稿で言及することを目指す。

# 【註】

- (1) Johannes Kessels, *Geschichtliche Quellen der Kindergartenarbeit*, S.198. in; Heribert Mörsberger, Erna Moskal, und Elsegret Pflug, *Der Kindergarten, Handbuch für die Praxis in drei Bänden, Band 1 Der Kindergarten in der Gesellschaft*, (Freiburg am Breisgau), 1978.
- (2) [http://de.wikipedia.org/wiki/Johann\\_Friedrich\\_Oberlin](http://de.wikipedia.org/wiki/Johann_Friedrich_Oberlin) (2012年11月29日確認)
- (3) Ebd, S.198-199.
- (4) 当時は、移行期であったため正式には3つの名称が存在した。リッペ侯国は、1806年まで神聖ローマ帝国、1806年から1813年までライン同盟、1813年以降はドイツ連邦に加盟する独立した主権を持つ国家であった。
- (5) [http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Pauline\\_\(Lippe\)\\_1801.jpg](http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Pauline_(Lippe)_1801.jpg) (2012年11月29日確認)
- (6) Kessels, S.199.
- (7) Ebd.
- (8) ヴェルトハイマーは、オーストリアにおけるユダヤ人解放の先駆者として知られている。少年保護施設を設置したのは、ヴェルトハイマーが若い頃であった。
- (9) Ebd, S.202.
- (10) Helmut Engelbrecht, *Geschichte des österreichischen Bildungswesen Band 4 (von 1848 bis zum Ende der Monarchie)*, (Wien, 1986), S.99
- (11) <http://einflussreicheleute.wordpress.com/tag/philanthrop/> (2012年11月29日確認)
- (12) Ebd.
- (13) Clara Dederichs, *Von der Bewahranstalt zum Kindergarten*, (Salzburg, 1962), S.12.
- (14) 当時は、エスターライヒ・ウンター・デア・エンス大公国 (Erzherzogtum Österreich unter der Enns) と呼ばれていた。
- (15) Dederichs, S.11.
- (16) Ebd, S.13-14. デデリッヒスは、1898年に発行された本の中でこの記述内容を見つけた。
- (17) ザルツブルク博物館協会は、1784年にマルティン(Franz Martin)が設立したザルツブルクで最も古い団体であり、主にザルツブルクの歴史を研究していた。協会は、ザルツブルクで最初の少年保護施設に決定的に重要な役割を果たしたのだが、1872年12月31日に廃止された。Ebd, S.18-19.
- (18) Ebd, S.16-17.
- (19) 正式には、エスターライヒ・オブ・デア・エンス大公国 (Erzherzogtum Österreich ob der Enns) と呼ばれていた。1850年に現在のザルツブルク州に相当する地域が切り離されてザルツブルク公国 (Herzogtum Salzburg) とされた。
- (20) Dederichs, S.19-20.
- (21) Ebd, S.20.
- (22) Ebd, S.57.
- (23) Ebd, S.58.